

吉吾古墳

～瀬戸内海を舞台に活躍した人物が眠る古墳～

市指定史跡である吉吾古墳は、詫間町荘内半島の積つむに所在します。古墳は方墳ほうふん(方形の古墳)といわれていましたが、図面など基礎的データがないため不明な点がありました。また、古墳から東に9m離れた場所には「箱式石棺」と呼ばれる埋葬施設が1基露出しています。古墳の形状や箱式石棺の規模などを明確にするために、5月から7月にかけて発掘調査を行いました。

発掘調査の結果①古墳は方墳ではなく円墳(丸い古墳)であること②大きさは直径約10mであること③出土した須恵器すえき(古墳時代の食器：朝鮮半島から日本に伝来)から、古墳時代後半(6世紀ごろ)に築造されたことなどがわかりました。そのほか、古墳と箱式石棺の間は9mほど離れていますが、その中間部分に両者を区画する溝があることもわかりました。また、箱式石棺の長さは、約2.9mと市内では最大規模であることがわかりました。

詫間町には志々島と本村中周辺に箱式石棺があります(後者は詫間町歴史民俗資料館に移築)。規模は前者が約2.3m、後者が約1.9mです。高瀬町にある矢ノ岡古墳の石棺が約1.6mですので、規模が大きいのが詫間町の特徴といえそうです。

吉吾古墳からは詫間湾が見渡せ、粟島・瀬戸大橋などを一望することができます。また、記録では釣針が石棺内から出土したという記録もありますので、ここに眠る人物は瀬戸内海をフィールドに活躍していたことが推測できます。



▲吉吾古墳(奥)と箱式石棺(手前)



▲発掘された箱式石棺

<生涯学習課>

今月の市民力

平成9年の国民文化祭のときに、うどんのお接待をしたのがきっかけで発足した大見公民館うどん同好会。現在、会員は37人。市内のイベントや小学校でうどん教室を開くなど、昔ながらの生地からのうどん作りを教えています。この日は吉津小学校の4年生にうどん作りを伝授。「香川伝統のうどん作りを体験して、おいしく食べてくれたらそれでいい」と、顔をほころばせる代表の白井節雄さん。「みんなの喜ぶ顔が見たくて」と言っている皆さんの笑顔は、とても素敵で輝いていました。

